

乳児期から続く症状に中学生で治療を始めた小児アトピーの経過 (15 歳男児)

症例 ID：001-15-HH | 記録日：2016 年 4 月 16 日

1. 診断・治療前経過

生後 2 週間頃から顔や手に黄色いぶつぶつが出て、汁が出る状態でした。近医でステロイド使用を勧められ、一度塗ったところ皮膚がきれいになりましたが、効果の強さに不安を感じ、すぐに使用をやめました。

幼少期は全身にぶつぶつが出て掻きむしり、夏は汗で悪化しました。幼稚園時にステロイドを使わない皮膚科へ通いましたが、一旦きれいになっても再び掻くことを繰り返しました。小学生では小康状態でしたが、中学受験の時期に不安やストレスで掻破が強まりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期にステロイド外用薬を一度使用しましたが、母親が不安を感じてすぐに中止しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	乳児期の短期間使用です。
中止時期	乳児期にすぐ中止しました。
来院前／後	来院前にごく短期間の使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 2 週間頃	来院前	顔や手に黄色いぶつぶつが出て、汁が出ていました。
幼少期	来院前	全身のぶつぶつと掻破があり、ガーゼなどで対応していました。
幼稚園時	来院前	ステロイドを使わない皮膚科に通いましたが、きれいになっても再び掻くことを繰り返しました。
小学 6 年頃	来院前	中学受験の不安でイライラし、常に掻きむしる状態になりました。
松本医院受診後	治療開始	漢方薬と漢方風呂を開始しました。漢方薬は匂いが強く飲みにくい一方、風呂には比較的慣れました。
治療経過中	経過中	入浴中に掻いて皮が剥がれ、風呂が汚れることもありました。
その後	経過後	花粉症がほとんど気にならなくなり、ティッシュ消費量が減りました。風邪も減多にひかなくなりました。

4. ピーク時期

ピークは、幼少期から夏場に全身を掻きむしる時期と、小学 6 年頃の受験ストレスにより掻破が強くなった時期です。

5. 困りごと

- ・学校生活の中でアトピーがあることへの不安がありました。
- ・受験期のストレスで掻破が強まり、親子のやり取りにも負担がありました。
- ・漢方薬の匂いが強く、服薬が負担でした。

6. 経過のまとめ

乳児期から症状が続き、幼少期から学童期にかけて掻破を繰り返しました。松本医院受診後は漢方薬と漢方風呂を続け、症状には一進一退がありました。

その後、悩みの一つだった花粉症はほとんど気にならなくなり、ティッシュの消費量が減りました。風邪も減多にひかなくなりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。